

広島県感染症発生動向月報

[広島県感染症予防研究調査会 感染症解析評価部会]
(平成15年4月解析分)

1 疾患別定点情報

定点把握(週報)四類感染症

平成15年3月分(3月3日~3月30日:4週間分)

疾患No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号	疾患No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号
1	インフルエンザ	468	0.98	5.82	↓	12	麻疹	1	0.00	0.12	
2	咽頭結膜熱	47	0.16	0.07	↗	13	流行性耳下腺炎	175	0.58	0.99	↗
3	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	302	1.01	0.67	↗	14	急性出血性結膜炎	2	0.03	0.06	
4	感染性胃腸炎	4,585	15.28	8.25	↗	15	流行性角結膜炎	105	1.25	1.29	↗
5	水痘	577	1.92	1.61	↗	16	急性脳炎	2	0.03	-	
6	手足口病	27	0.09	0.13	↘	17	細菌性髄膜炎	0	-	0.01	
7	伝染性紅斑	41	0.14	0.18	↗	18	無菌性髄膜炎	0	-	0.13	
8	突発性発疹	205	0.68	0.62	↗	19	マイコプラズマ肺炎	7	0.08	-	
9	百日咳	2	0.01	0.02		20	クラミジア肺炎	0	-	-	
10	風疹	10	0.03	0.03		21	成人麻疹	0	-	-	
11	ヘルパンギーナ	8	0.03	0.06		「過去5年平均」:過去5年間の同時期平均(定点当り)					

急増減	増減	微増減	横ばい
↑	↗	↗	↔
↓	↘	↘	
前月と比較しておおむね1:2以上の増減	前月と比較しておおむね1:1.5~2の増減	前月と比較しておおむね1:1.1~1.5の増減	殆ど増減なし(発生件数少数のものを含む)

定点について

定点情報は、定点把握対象の四類感染症(週報対象21疾患,月報対象7疾患)について、県内187の定点医療機関からの報告を集計して作成しています。

	内科定点	小児科定点	眼科定点	STD 定点	基幹定点	合計
対象疾患 No.	1	1~13	14, 15	22~25	16~21, 26~28	
定点数	44	75	20	27	21	187

この情報は、「<http://www.pref.hiroshima.jp/fukushi/kenkou/kansen/index.html>」のホームページに掲載しています。
全国情報については、「<http://idsc.nih.go.jp>」に掲載されています。
インフルエンザホームページについては、「<http://influenza-mhlw.sfc.wide.ad.jp>」に掲載されています。

定点把握（月報）四類感染症

平成15年3月分（3月1日～3月31日）

疾患 No	疾患名	月間発 生数	定点 当り	過去 5年 平均	発生 記号	疾患 No	疾患名	月間発 生数	定点 当り	過去 5年 平均	発生 記号
22	性器クラミジア感 染症	46	1.70	1.93	⇨	26	メチシリン耐性黄 色ブドウ球菌感染	106	5.05	-	⇨
23	性器ヘルペスウイ ルス感染症	13	0.48	0.55	⇨	27	ペニシリン耐性肺 炎球菌感染症	50	2.38	-	⇨
24	尖圭コンジローム	19	0.70	0.47	↑	28	薬剤耐性緑膿菌感 染症	7	0.33	-	
25	淋菌感染症	19	0.70	0.58	⇨	「過去5年平均」：過去5年間の同時期平均 (定点当り)					

インフルエンザ 急減（2月2,609件 3月468件）
尖圭コンジローム 急増（2月7件 3月19件）

2 一類・二類・三類感染症及び全数把握四類感染症発生状況

一類感染症 発生なし
二類感染症 細菌性赤痢 2件発生（広島市 1件・尾三地域保健所管内 1件）
三類感染症 腸管出血性大腸菌感染症 1件発生（広島地域保健所管内 1件）
全数把握四類感染症 6件発生
（急性ウイルス性肝炎 4件（A型）、アメーバ赤痢 1件、後天性免疫不全症候群 1件）

3 冬のインフルエンザの発生状況について

インフルエンザの流行が、早く始まりましたが、やっとおさまってきました。
今冬は第3週（1月13日～19日）の15,121件（定点あたり31.56）がピークで減少してきて
3月分（3月3日～3月30日）では、月間発生数が468件（定点あたり0.98）で終息に向かってお
ります。患者からのウイルスの検出状況は、県内、全国とも、Aソ連型、A香港型、B型の何れも検出され
ており、この3タイプが流行したものと考えられます。

4 感染症情報

尖圭コンジローム

尖圭コンジロームは、ヒト乳頭腫ウイルスの感染によるSTD（性感染症）のひとつで、性器や肛門の
まわりにイボができ、痒みや痛みはない場合が多い。潜伏期間はヒト乳頭腫ウイルス（ヒトパピローマウ
イルス）に感染してイボが確認できるまで3週間から8ヶ月（平均2.8ヶ月）後に症状が現れます。